手記　中央行動に参加して

北と南の連帯感強し

四山指導部　宮村利男

二十五日（去る二月の。以下同じ）、立山次長を小隊長とした三十名編成の三池部隊東京に着く。吹きつける雪が、われわれの行動のきびしさを思わしていた。

宿舎では身のまわりの整理後、明日からの行動に備え全員早や目に寝る。

二十六日、午前十時から日比谷音楽堂で上京団全員集会。公園の噴水に一メートル余のつららが下がりきびしい寒さの中で、全員が意志統一。

その後直ちに通産省に行き、二階の大臣、次官室前の廊下に全員座り込んだ。炭労、全鉱、私鉄などの労仂者に産炭地自治体代表、教組、商店街代表の間から交渉者を選出、午後七時半頃まで「炭鉱国有化」問題について交渉。

二十七日、降りだした雪は次第に激しく、すべる歩道を労仂省へ全員寒さを打ち消すため労仂歌や剣突き鉄砲の体操。われわれの気合には、往き交う東京の人々がびっくり。午前十一時、庁舎内で座り込み開始。同時に対政府交渉中食後各社別交渉。われわれは三井鉱山本社へ。九州炭労の渡辺執行委員、宮田書記も加わる。会社側からは本社労仂副部長の加藤恭一ほか五名。

われわれの言葉は山元の声だ。会社側代表に向かって鋭い語気で質問の矢が飛ぶ。

――出炭こそ上昇しているが、われわれは日一日と労仂強化に追いこまれ、人手不足から起きる保安無視から重大災害が続発している。どう考えているか。

――三井鉱山に仂きながら、生活保護を受けねばならぬ人もいる。会社は高能率高賃金といっても、それはごく一部の人に限っていえることで、多くの者は永年にわたり低賃金で苦しんできた。どう思うか。

――CO患者をめぐる諸問題について、会社は責任ある処置をとれ。

――遺族たちは、打ちつづく物価高の中で生活が極度に苦しくなっている。どう思うか。

――三池労組員と新労組員に対するひどい差別は、絶対に許されない。

以上のような抗議や要求に対して会社代表は、「CO問題については、取り決めたことはしっかり守ってやっている」「差別など絶対に行なってはいない」「保安については精一ぱい努力している。でも百点満点というわけにはいかない。まして特殊条件のもとにある炭鉱のことで、ときには小さいミスもあるでしょう」などと繰り返すばかりだった。そこで「人を殺しておいて、小さいミスとは何だ」と詰め寄ると、それには黙して答えなかった。

「国有化についてどう思うか」という問に対して、彼らは「私企業としてやって行く。さらに努力して生産能率を高めたい」と答えるので、さらに「山元では労仂強化と低賃金と保安不安から、山を去る人が続出している。このような状態の中で何が生産か」など指摘してひきあげた。

激しく降りつづく雪の中を、立山小隊長以下はまた歩いて宿舎に帰る。三輪車やトラックの中から「炭労頑張れ」と声をかけてくれる人もいた。閉山した山のかつての友かも知れない。われわれは手を振ってこたえたが、今日は上京任務をいくらか果したようで、苦にならなかったが、寒さの中の行動に対する慰労の意味で、指導部から夕膳に酒二合がつく。隊員一同の気持和らぐ。

二十八日午後衆参両院の請願受付案内所に全員座り込む。社会党議員からかわるがわる激励を受く。午後四時頃座り込みを解き、そとにで隊列をつくり、こんどは衆院通用門から柵内に突入した。これを必死に阻止しようとする衛士と警官隊との間で混乱状態となったが、彼らは数分間でその場に集中されたようだ。われわれは犠牲を避けるためそとに退散したが立立山小隊長そのほか負傷者さえでた。

われわれが道路にで終ったころサイレンを鳴らしながら機動隊がトラックの列をつくって到着、それからはわれわれの行進する隊列を両側から取り囲みながら、日比谷公園にはいり終るまで威圧を加えた。

日比谷公園の野外音楽堂で開催された「物価・減税、春闘共闘第一次統一行動中央集会」に全員参加。

三月一日、社会文化会館（社会党本部）で上京団全員参加の上総括会議。明日は閉山に直面する山とビルド鉱の事情こそ異るが、強い連帯感がみなぎったのは感激だった。これまで経験した政転闘争のマンネリズムを脱却したこんどの行動は高く評価すべきだ。

西のわれわれは北に帰る人々と別れを告げて帰ったが、任務を果し得た喜びとともに、こんどの経験が地域や職場で十分生かされるように願っている。

日比谷公園で開かれた集会に参加した炭労上京団（本所指導部松岡大喜さん撮影）

三井鉱山の幹部に抗議交渉を行なう上京団（三井鉱山の本店で、撮影は上と同じ松岡さん）

三井へ憎しみこめて

―CO家族

世の中には、あまりにも苦しむ者が多過ぎる。ひとにぎりの太った資本のために赤い血を流し、憎しみを顔にあらわしながら愛する家族を残し、幾人の人がその犠牲になって行ったことか。

毎日の新聞やテレビでの事故や事件だけ数えても数かぎりないが個人の場合、事故や事件などで小指一本切っても「傷害罪」としてすぐブタ箱に入れられるのに、資本家なら五百人の労仂者を殺してさえ「証拠が不十分です」のひとことで、犯人としてつかまることはない。

日本の法律というものは、まじめに仂く労仂者や、政府に反対する者たちを不幸にするために作られた法律である。正直にしている者はバカ者扱いにされて損するようにできている。三池三川鉱の炭じん大爆発に関する証拠が、なんで不十分なものか。私はどうしてもなっとくが行かない。

証拠にはちゃんと、あの大爆発で殺された四百五十八名の仲間の遺族と、八〇名からのCO患者が現在生きている。

生き証人として毎日どんなに苦しんでいるか見えないか。なにより会社は、あの社葬のときに長々と読み上げた弔詞を思い出し、もっと遺族のことやCO患者のことを考えるべきです。

三本線入りのヘルメットをかぶり、差別に耐えながら闘ってきた仲間たちを、一瞬にして廃人に変えてしまった会社。私は三井を一生憎まないわけには行きません。

現在三井にあいそをつかして、会社をやめて行く若い仲間たちが大分ふえてきています。一人へり二人へり、淋しい気持です。私の家とて、主人がガスさえ吸っていなかったら、何時までも三井に仂いてやるものかと思います。

三池労組全体で取り組んでいる「命を守る闘い」の中心になって三井に二度と大災害を起こさせぬために、闘いを起こして行かなければいけないと思います。

「俺はガス患者だから、組合員が、指導部がなんとか守ってくれるだろう」ぐらいに考えて甘えていたら、それこそみんなから見捨てられる時がくる、と私は思う。

そういうことのないように、自分にできる闘いには参加し、苦しみをみんなとともにして行くべきです。そうしないと固いスクラムもゆるみ出してしまいがちです。

生活は苦しい。苦しいからこそ闘いもする。ハンストも、座り込みもするのです。まして三井に仂いている限り闘いつづけなければ自分の方がおしつぶされる。

早く世の中が変り、子どもたちの時代、孫たちの時代には、もうハンストも座り込みもしないで、楽しく明るく暮らして行けるようにしてやりたい。そのためにも、私たちは闘いをやめなさい。

いよいよ春闘に入り、とくに炭鉱国有化を目指す私たち炭鉱労仂者は力一杯闘うときです。組合員・主婦会のみなさん、お互いに助け合いながら春闘要求を勝ちとろうではありませんか。

まるで人間のムクロ

自分の足で訴えよう

本所指導部　熊大見舞から

三池労組本所指導部では、去る二月三十二日、組合員、主婦会員CO患者を守る会会員、CO患者家族の会々員など五十七名で、熊大入院中の宮嶋さんらCO患者の見舞いを行なった。

熊大見舞いのあと全参加者は、主婦、組合員におかれて感想を出しあい、総括会議を行なった。

活発に出された意見の中でも、七十二才になる森田こずえさん（CO患者を守る会々員）は「この催しに招待していただいたことを有難く思います。こんど私も隣近所の人たちや、老人会のなかで、ぜひ、炭鉱のことを話します」と語り、みんなを感激させた。

以下はそのときの座談会で出された意見である。

一歩でもひろげよう

患者をみて感じたこと

――どうしても人間とは思われない。動物的な感じがした。

――言葉では表現できない。人間として絶対許せない。三井の犯罪史だ。

――話では聞いていたが、実際に目でみてビックリした。このようなことが平然と存在することには、個人の力や一部の力では対抗できない。多くの人たちの力を合わせなければならないと、改めて知らされた。

――宮嶋さんの目と、枯木のように曲った体をみていたら「これでいいのか」と問いつめられているように感じた。会社に対する怒りを肉体全体でブッツケているようだ。じっとしてはおられない。

――現在の看護状態に問題がある。父母も格子なき牢獄で廃人になされつつあるようだ。特別に訓練し看護婦を専任させるべきだ。交替しなければ体がもたん。

――はじめて事実をみて、三井の善人面の正体がハッキリわかった。この事実を一人ひとりができるだけ多くの人々に訴えつづけねばならない。

長期に、計画的に

今後のわれわれの課題

――CO闘争は三池だけで勝利するものではない。また、CO患者だけの問題でなく、すべての階級的、政治的な闘いにひろげなければならない。CO闘争はそれを実現する、きわめて人間的な、労仂者の原点ともいうべきものに立った闘いである。

――困難で長期の闘いであることは覚悟せねばならない。大牟田、荒尾地域をいえば、計画的に全組合員・家族、守る会会員がビラ、機関紙などを配布し、CO闘争を理解してもらうような下地をつくる必要があると思う。

校区連協が中心になって熊大見舞に真剣にとりくまなければならないでしょう。

――より身近かな、退転者の子弟に加入してもらうよう努力すべきだ。自分の足で何回もいき、ねばる必要がある。

――行動の前に、まずCO闘争の基本的性格（資本主義の本質）を正しく知ることが必要だ。したがってそのために学習会でも開いて意志統一すべきだ。

――いまとだえているが、街頭での写真展を行なう必要がある。映画が出来ているそうだが、早く計画をたててもらいたい。

安保わたしも反対 ⑰

戦争準備への怒り

原田清人（俳優）

ぼくはこの三月までで終わるNHKテレビ小説『あしたこそ』の大輔役で出演してきましたが、そのなかで安保闘争の時期が背景になった場面がありました。大輔が貿易関係の仕事だからということで、商売相手がアメリカだから、「安保騒動が早く終わってくれなきゃこまる」というようなセリフがあるのです。ぼくは、これには断固反対しました。少なくとも大輔の世代の人たちは、安保闘争を肯定したはずです。結局このセリフはなくなって、代わりに「たいへんだね」とゴマ化すことばになったんですが……。

もちろん安保条約、安保体制に反対です。人間らしい夢や希望をもって生きるには、安保は必要ないし、害にしかならないのですから。

【KNA】